

平成21年度 森プロ事業実績：朝霧の森プロジェクト

(平成22年3月末現在)

	H20年度	H21年度				5カ年 計画
		計画	実績	達成率	備考	
集約化(ha)	—	194	56	28.9%		584
作業道(m)		1,500	1,475	98.3%	作業路含む	11,000
間伐等	面積(ha)	—	80	37.5%	利用+切捨 (人工林のみ)	490
	材積(m3)	—	2000	83.9%		14,000
備考	団地外実績(利用面積:16ha、搬出材積:6,626m3、作業路開設:(基幹作業路257m、森林管理路1,218m))					

H21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

6,900 円/m3

施業集約化の状況

- ・初年度集約化計画区域の笹ヶ洞・寺地地区については、施業予定区域の明確化および森林資源調査をほぼ完了。今年度も引き続き隣接する地区への施業集約化へ取り組む予定である。

施業プランの活用状況

- ・選定した利用間伐区域ごとに作成し実施・様式等は更に検討中である。

施業プランナーの養成状況

- ・平成20年度に2名養成し、今年度1名が研修を修了した。



笹ヶ洞地区座談会



寺地地区座談会

作業道の状況

- ・全体計画では幅員3.6mのトラック運搬用の幹線と、それに接続する支線は車輛系システムでの搬出路を計画しているが、今年度の事業地は資源の分布状況等から既設の林道・作業路から比較的短距離で量的な搬出が可能な区域を選定し、森林管理路を4路線開設した。(内、2路線はひだ林業・建設業森づくり協議会へ下請発注し、技術研修会を行いながら実施した。)
- ・平坦地では、湧水を含んだ軟弱な土質と、開設時期が悪く、水処理に苦労した。
- ・一路線で深いクロボク土層が現れ、路盤固めに相当量の山土砂を要した。



深いクロボク土層



伐根を利用した路肩補強



敷き均し状況

作業システムの状況

- ・ 作業道開設 → 伐倒 → 造材 → 積込 → 搬出  
バックホウ      チェーンソー      ハーベスタ      ハーベスタ      グラップル      フォワーダ
- ・ 既設作業道等 → 伐倒 → 造材 → 積込 → 搬出  
                      チェーンソー      ハーベスタ      ハーベスタ      グラップル      トラック



作業路開設状況



ハーベスタでの造材



トラックへの積込状況

その他

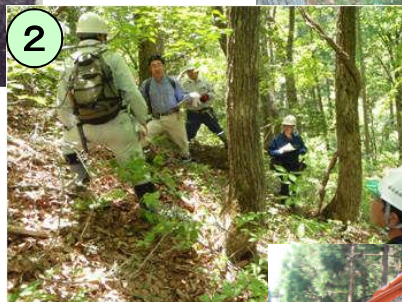
- ① 『美しい森林づくりin飛騨市』では、飛騨農林事務所・飛騨森林管理署・飛騨市が共同で研修会を開催した。  
(現地研修会として、利用間伐モデル林において高性能林業機械による搬出の実演を行った。)
- ② 森林研究所から講師を招き、森プロ団地内において天然林整備の研修会を開催した。
- ③ 林業と建設業との協働により、各種の講習会を実施した。
- ④ 地元中学校の生徒を対象にした林業教室を開催した。



1



1



2



3



3



4

#### 森プロの成果

- ・従来の組合事業である「造林型事業」から、「林産型事業」への実践の場ができた。
- ・路網整備と高性能林業機械を導入した素材生産の低コスト化により、実際に利益還元することで、森林所有者が山に関心を持っていただけるようになった。
- ・森プロを通じ、今後他地域でも計画される集約化施業への理解が一層深まった。
- ・団地内の地域ごとに利用間伐モデル林を設置し、路網整備と高性能林業機械による伐出の展示に努めた。
- ・関係職員が森林情報の集積や作図などにパソコンソフトを積極的に活用するようになった。
- ・県地域担当AGさんとのつながりが一層強まった。
- ・各種研修会の開催によって間伐の必要性が一般の方にも理解されるようになった。

#### 今後の課題

- ・森林資源調査方法と作業路の開設について、プロジェクトのスタッフ全員が共通認識を持って取り組むこと。
- ・計画的な事業実施のために、月次単位での進捗管理を行うこと。
- ・実践的な施業プランを作成し、運用していくことが必要。
- ・作業路開設のオペレータをさらに養成し、路網整備を先行させること。